



その 241

クローズアップ21

県内客と合わせ、県外客の囲い込みも Kochi黒潮カントリークラブ

トーナメント開催を生かした施策でリピーターを増やす

今回紹介するKochi黒潮カントリークラブ（36H、高知県）は、四国屈指の知名度を持つ1989（平成元）年11月3日に開場のトーナメントコース。コース設計は（株）竹中土木、四国開発（株）。

黒潮観光開発（株）が経営するメンバーシップのゴルフ場だが、会員の紹介は必要なく、ビジターだけでも気軽にラウンドすることができる。

2005年からはJGTO公認の男子プロゴルフトーナメント『カシオワールドオープンゴルフトーナメント』（主催…カシオ計算機（株）、黒潮観光開発（株）、（株）テレビ高知）が毎年開催されていることで有名だ。なお、カシオワールドオープンの際には黒潮コースの1～5番ホール、15～18番ホールと太平洋コースを使用している。

2020年は新型コロナウイルスの感染拡大や社会環境の変化を受け、大会は中止となったが、毎年トーナメント開催している知名度を生かし、様々な施策で県内外からのリピーターを増やしている。

その施策の紹介の前にまず、同CCの概要について簡単に触れておこう。年間の入場者数は約8万

5000人で、入場者の比率はメンバー20%、ビジター80%。男女比は男性89%、女性11%。そしてメンバーの数は約1400名で平均年齢は65歳。県内外の比率だが、県内が52%、県外48%だという。県外の内訳として、島内（香川、愛媛、徳島）と岡山近郊で40%、近畿地区25%、関東地区35%という構成になっている。

ゴルフ場の概要も終わったところで、同CCの様々な施策について、浦松裕二郎支配人と八木敦士副支配人に話を聞くことができたので紹介していきたい。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、地方自治体との連動事業が始まる

「当クラブも新型コロナウイルスの影響をかなり受けました。やはり2月下旬から3～5月にかけてが一番厳しかったですね。例年だと、3～5月にかけては当クラブの繁忙期にもかかわらず、お客様が対前年の3割ぐらいになっていました。いち早く、日本ゴルフ場経営者協会（NGK）がゴルフ場業界としての『新型コロナウイルス感染防止ガイドライン』を出



Kochi黒潮CCの浦松裕二郎支配人（左）と八木敦士副支配人

されたので、これを見習って対策を考えました。このガイドラインは従業員にも理解してもらうきっかけとなり、ものすごく助かりました。とはいえ、コロナウィルスで全国各地からの飛行機も欠航し、県外客がほぼ全滅状態でした。県内外問わずコンペも全滅でしたね。反面、個別の県内客（主にメンバー）にかなり来場いただきました。入場者減で苦しんでいる当クラブを応援して下さる地元の人々、皆さんの来場が前年に比べかなり高かったです。ゴルフ場を応援した強い気持ちの強いメンバーさんに背中を押していただいた感じです。また、お客様がかなり減っていた

「芸西村観光活性化支援事業は、9月末に芸西村役場において観光活性化を目的としたゴルフア・支援策が議決されました。この事業は、新型コロナウイルス対策臨時交付金を活用した補正予算により行われます。20年10月1日以降、

ので、高知県の雇用調整助成金を活用し、従業員にはコロナ公休を取ってもらいました」（浦松支配人）

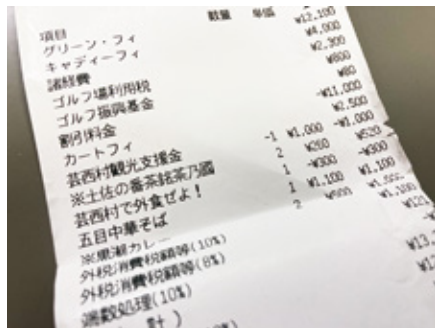
同CCCは、高知県安芸郡芸西村に位置しているが、令和2年度・芸西村観光活性化支援事業」と芸西村飲食店応援事業」（芸西村で外食せよ！）という地元企業を応援する事業を自治体が企画したという。



芸西村飲食店応援事業

当クラブにご来場されるビジタ
客の方を1名につき、ご利用料金
から芸西村観光支援金として10
00円を割引するというものです。
予算金額に到達次第、終了となり
ますが、現在も継続中です」(八木
副支配人)

芸西村としても地元の観光資源
を応援したい気持ちから、村長を
中心に始まった事業だといひ、芸
西村飲食店応援事業の加盟店舗
(10力所)が対象であったという。
「芸西村飲食店応援事業(芸西村
で外食せよ!)は、10月1日から
スタートしました。3000円を超
える飲食で1名3000円を割引す
るというものです。芸西村として
は先着3万人を対象として令和3



領収書に印字された「芸西村観光支援金」と「芸西村で外食ぜよ！」

年2月28日までの期間を設け、予算組みをしました。が、好評につき11月22日をもって終了となりました。当クラブでは、プレーなしのレストランでのお食事だけの来場も受け入れていました。元々はお隣の香南市で始まった事業で、自治体が観光客による収入を重要と捉えており、芸西村でも実施することになりました。領収書の印字を見て喜んでくれるお客様も多かったです」(八木副支配人)

ゴルフ場独自の企画である
『黒潮ジュニア選手権』

ここで話は変わるが、同CCCでは日頃からジュニアの育成に積極的であり、ジュニア料金を設定しているだけでなく、21年前から「黒潮ジュニア選手権」(第11回大会まではKochi黒潮ジュニアカップ)と称したジュニアの大会を開催している。

「当クラブではジュニアの育成、若年層、いわゆるゴルフ人口の底辺拡大を目的とした、黒潮ジュニア選手権を年一回（８月）開催しています。21年前に発足して、黒潮ジュニアカップ実行委員会が立ち上がりました。高知県で一番古



黒潮ジュニア選手権の様子

く、プロゴルファーの草分けであった八木守孝プロが中心となり、宮田孝誠プロが事務局として携わ

る形で運営されていきました。八木守孝氏は20数年前から四国島内のジュニアを対象とした「フューチャーカップ」という大会を作り、運営していました。当時から「これからはジュニアの育成をしないといけない」という想いがあつたそうです」（浦松支配人）

黒潮ジュニア選手権は参加料無料で、松山英樹、渋野日向子、河本結、金谷拓実など、有名プロを多数輩出されている権威ある大会で、最近だと現在注目を集めている中の一人、アマチュアの杉原大河も小学生の時から出続けていたという。なお、高校男子の部で優勝するとカシオワールドオープンの出場権が獲得でき、高校女子の部で優勝するとJLPGAステップ・アップ・ツアーの日台交流うどん県レディースゴルフトーナメントの出場権が獲得できる。2020年度はコロナで中止となったが、毎年男女合わせて250名前後が全国から集まるという。

近年はジュニア関連の大会も増えてきているので、各地の大会と重なることも少なくないという。高知県にあるゴルフ場ということとで最低限、中四国エリアの大会と

は重ならないよう日程を決めているとのことだ。

「毎年、レベルが相当高い大会となっています。黒潮ジュニア選手権に出場した中四国エリアの選手が将来、カシオワールドオープンに出場して活躍してもらえたらなと思っています。ツアーにもつながっていますし、今後も継続して開催していきたいと考えています」（八木副支配人）

余談だが八木副支配人は、プロゴルファーでもあり、ゴルフ人口の底辺拡大をしたいという想いもあつて、高知中央高校のゴルフ部と高知大学医学部のゴルフ部の指導にもあたっているという。

トーナメント開催を生かし、様々なオープンコンペを開催

同CCでは、カシオワールドオープン開催を生かし、県内外の客に対して多種多様なコンペを開催している。

「カシオワールドオープン開催感謝企画「ワン・オンチャレンジコンペ」は人気のコンペの一つです。トーナメントでもおなじみの太平洋コースの7番ホールに、男性が240ヤード、男性の60代以上が

カシオワールドオープン開催感謝企画「ワン・オンチャレンジコンペ」



使用されている太平洋コースの7番ホール

200ヤードと、そして女性が180ヤードと、3箇所に特設のティーイングエリアを設定して、そこからワン・オンした方には豪華賞品を提供するといった、オリジナルコンペです。

その背景には、2019年度の大会で7番ホールからワンオンを



カシオワールドオープンの効果はやはり絶大

狙うため、新たにティーイングエリアを新設したことが挙げられます。わかりやすく言うと、このイベント企画はアマチュアバージョ

ンといった感じです。テレビで観戦していた方や、メンバーさんからも「挑戦してみたい」といった声が多く、このイベントを企画しましたところ、すごい好評です。『CASIO WORLD OPEN』という池に浮かんだロゴを見ながら、プロになった気持ちで挑戦してもらおう、といった考えがあります。

一番、地元のアマチュアのお客様様に好評なのは「黒潮ダブルスクランブルゴルフ大会」です。近頃、四国内でスクランブルゴルフが流行っているので、当クラブ独自でやってみようと思ったのが開催のきっかけですね。限定30組で実施していますが、毎回キャンセル待ちで出ている状況です。

そして、県内外から人気なのは「カシオワールドオープンFINAL ROUNDステージを再現!」です。最終日のピン位置と、グリーンもトーナメント並みに速くセッティングしています。皆で最終日のピン位置を体験し、プロの気分を味わってみませんか、といったもので1、2月の平日の閑散期に2、3回開催しているオープンコンペです。3、4年前から始めました。

ティーイングエリアは特に指定はしておらず、人それぞれに任す形で実施しています。

私の中では、カシオワールドオープンを開催することによって1割強のお客様が増えていると長年の経験で感じています。今後も県内外問わず、気軽に参加してもらえるような仕掛けを進めていきたいと思っています」（浦松支配人）

国内34コース、海外1コースとの提携を生かした取り組みも視野に

同CCと提携を希望するコースは多い。全国的に認知度がある鰹を中心に、多数の特産物や観光資源があることも関係しているだろうが、やはり一番はカシオワールドオープン開催の影響だろう。同CCと提携しているのは国内だと札幌国際CC島松コース、ザ・ロイヤルGC、芥屋GCなど34コース。海外だと、台湾にある、日本の渡辺弘氏設計の台豊高爾夫球場（TAIFONGGC、18H）と2019年に提携したという。

「台湾のコースとは当クラブの理事長が向こうの方と経団連関係で知り合いになり、提携すること

になりました。コロナが収束したら、少しずつ送客したりと交流していきたいと考えています。また、国内の提携コースは基本的にトーナメントコースという前提があります。

トーナメント開催コース同士の共通の悩みや考えもあるでしょうし、理事会や役員らと一緒に訪問し、定期的に交流を図っていきたいと思っています。個人的には提携コースと、レストランメニュー全般についての情報交換をしたと考えています。余談ですが、レストランメニューのタッチパネルの本格的な稼働も視野に入れています。ご期待下さい」（浦松支配人）



約1年前からレストランで提供している生鰹は非常に好評